みんなで話合い、みんなで決め、みんなで行動

広島県労連

〒732-0052 広島市東区光町 2-9-24
TEL(082)262-1550 FAX(082)261-5059
E-mail:hiroshimakenrouren@nifty.com
http://h-kenrouren.la.coocan.jp/
広島県労働組合総連合

No.426　2025年7月25日

有料機関紙
月1回25日・1部30円

編集・発行人　広島県労働組合総連合
（組合員の購読料は組合費に含む）

最低賃金は全国一律1500円に!!

6・27早朝宣伝と座り込み

▲８時からの最賃宣伝行動には20人が参加し、全国一律1500円以上を訴えました

広島県労連は、6月27日「最低賃金の全国一律制度への法改正と1500円実現を求める「最賃デー」行動を行いました。前日20時から翌日12時00分までのハンスト（水以外は口に入れない）を行うと共に、早朝宣伝と9時からは労働局（合同庁舎）南側に座り込みのアピールを行いました。

広島バスセンター前で30人が早朝宣伝!!

6月27日(金)7時半から8時過ぎまで毎月第三金曜日に続けているディーセントワーク宣伝をそごう前で行い、続いて8時から広島バスセンター前で「最低賃金」引き上げの宣伝を行い30人が参加。パリン会長の大内理枝さんがマイクをにぎり、「最低生計費試算調査でも、全国どこでも1500円以上1700円は必要との結果が出ている。早期に実現を」と訴えました。パリン事務局長の田頭奈美江さんもマイクで「もうすぐ広島でも地方最低審議委員会がはじまる。誰にも関係する最低賃金。私たちの声を届け、最低賃金は全国一律制1500円以上を実現しよう」と訴えました。その後、広島市民病院北側の合同庁舎前の緑地帯に移動し、最賃引上げをめざし、『座り込みとリレー宣伝行動』を行いました。

◆座り込みとリレートーク

リレートークでは7人が発言。自治体の会計年度任用職員のなかまは、「会計年度任用職員制度ができて6年目でほとんどがパートタイムで働く正規と数分短いだけで退職金が出ないなどの差がある。時間単位での働きで生活は厳しい」と発言。ヒロシマ労連のなかまは「非正規労働者は2288万人もいる。正規が8万人も減る中で、非正規は67万人増えている。最賃全国一律1500円に引き上げる宣伝を続けることが意味があり頑張りたい」と呼びかけました。

リレートークの終了後、合同庁舎広島労働局へ向かって『最賃引上げ、ガンバロー』をみんなで唱和し、行動を終了しました。

◆中央・地方最賃審議会はじまる

最低賃金を決める中央最低賃金審議会から7月末頃、2025年の最低賃金の目安が出されます。それを受けて8月に地方審議会での審議が本格化します。

県労連ではパリンを中心に7月15日と7月30日開催の広島地方最低賃金審議会を傍聴。意見書も提出するなど最低賃金の大幅引上げをめざす行動を行っています。

▲署名1680筆を労働局に提出

「いのちのとりで（生活保護）裁判」

最高裁勝訴!!

全労連や広島県労連が支援する「いのちのとりで裁判全国アクション」が、生活保護基準引き下げは違憲だとして国や自治体を相手に裁判していた訴訟では、6月27日、最高裁は原告の勝訴判決を言い渡しました。2013年から3回に分けて生活扶助基準（生活保護基準のうち生活費）を平均6・5%、最大10%引き下げたのは違法として全国29都道府県で1000人以上の原告が提訴していました。判決は、裁判官全員一致で国が引き下げの主要な根拠と示した「デフレ調整」については「専門的知見との整合性を欠き、厚生労働大臣の判断の過程及び手続に過誤、欠落があり違法」と断罪しました。この原因は、2012年の総選挙で自民党が「生活保護基準の10%引下げ」を公約に掲げて政権に復帰したことで厚生労働大臣が引下げありきで「法」を軽視した点にあります。国は判決に従い被害の回復措置を直ちに講じるべきです。

▲勝訴に歓喜する原告・支援者

広島県労連2025年度役員選挙の告示

広島県労連規約第26条第３項に基づいて規定された役員選挙規定の定めにより、広島県労連2025年度役員選挙に関する事項について、下記の通り告示します。

記

1.役員定数

選挙する役員と定数は、第72回評議員会（6月21日・広島ロードビル）の決定により以下の通りとします。

①議長	1名
②副議長	4名
③事務局長	1名
④事務局次長	3名
⑤幹事	15名
⑥会計監査	2名

2．役員任期

役員任期は広島県労連規約第24条に基づいて翌年の定期大会までとなります。

3．選挙日程

①立候補の届け出期間は2025年8月1日（金）10時より2025年8月29日（金）12時までとします。

②選挙の投票は、郵送により実施します。（郵送9月3日発送）

③投票締切は9月18日（木）18時　県労連着とします。

④投票の結果の公表は第37回広島県労連定期大会（9月20日）にて行います。

4．役員立候補の届出方法

役員立候補の届出は「役員立候補届」用紙に必要事項を記入の上、「役員選挙管理委員会」に提出してください。

2025平和の行事案内

国民平和大行進　8月4日（月）

・府中町原爆慰霊碑　8時45分出発式
・新庄橋北詰　9時20分出発式
・南区役所　9時35分出発式
○終結集会
平和公園噴水前　11時30分～12時

通し行進者お疲れ様会　8月3日(日)
広島ロードビル　14時～　参加費1000円

原水爆禁止世界大会

・被爆80年特別プログラム
『被爆80年広島のつどい』
8月4日(月) 14:00 広島グリーンアリーナ
・分科会・動く分科会
8月5日(火) 14:00～16:30
・閉会総会　8月6日（水）
広島グリーンアリーナ　10:30～
◇とうろう流し　19:30～　基町河川公園

草の根わらわら

違って見えても根は同じ

推進力

今年は、被爆80年を迎える。世界では核兵器を背景とした争いが続き、今でも一日一日多くの命が奪われている。一刻も早く、日本政府は核兵器禁止条約に参加し、世界から核兵器を無くし、戦争を無くしていく努力をしてほしい。▼参議院選挙が7月20日に行なわれ、自公政権は過半数割れとなり、衆議院に続き、少数に追い込まれる形になり歴史的な選挙となった。自民党が大敗した一方で、新興政党が大きく議席を伸ばした。過去10年投票率がどんどん下がり、選挙に行かなくなった。今回は前回を6%も上回り平均で58%を超えた。SNSやショート動画、Youtube動画が拡散され、『ワンワード』のキャッチフレーズで若者たちが投票に動いた。▼今回の選挙で、外国人差別を助長する排外主義な主張をする政党が大きく議席を伸ばしたことに危機感を覚える。これまでの多くの国民の願いの憲法や平和、原発、核兵器、戦争などの争点は追いやられた。一番必要なのは戦争のない平和な社会の実現だと思う。そのためにも、一人一人の尊厳が守られ、大切にされる社会の実現が重要になってくる。差別・排外主義はそこに真っ向から逆らうものであるのだと思う。▼お互いを気にかけながら、誰もが助け合える社会の実現こそが、豊かな暮らし、平和な社会には必要だということに確信を持ち、頑張りたい。（T）

「被爆80年」核のない世界へ

県原水協と県被団協が共同宣伝

原爆投下を正当化するトランプ発言許せない

広島県原水協と同被団協は6月26日、米トランプ大統領が米軍によるイランの核施設攻撃を広島・長崎への原爆投下になぞらえて正当化したことに対し、緊急の抗議集会を原爆ドーム前で開きました。急な呼びかけにもかかわらず50人が参加し、「トランプ発言許せない」「原爆投下を正当化するな」などと書いたプラカードを掲げて抗議。集会では被爆者や被爆2世ら6人が発言。県被団協の佐久間邦彦理事長は「トランプ発言は被爆者の思いを踏みにじるもので許せない」と怒りをこめて発言。山田副理事長は「2歳で原爆孤児になり、その後の苦しみは大変なものだった。発言を聞いて怒りに震えた」と述べました。集会は最後に「原爆使用正当化発言に抗議し、撤回を求める」との抗議文を採択し、米大使館と日本政府に送りました。

▲ドーム前でボードを掲げトランプ発言に抗議しました

「禁止条約」成立8周年、日本政府は条約の批准を

「核兵器禁止条約」成立8周年となる7月7日夕、八丁堀福屋前で日本政府に条約への参加を求める宣伝活動を行いました。およそ30人が参加し、「日本政府は条約の批准を」「平和でこそ！いのち・くらしまもる政治に」と書いた横断幕を掲げました。また、当日の朝日新聞の掲載された「意見広告」の拡大コピーを掲げて市民に訴えました。リレートークで6人が発言。被団協の佐久間理事長は、最近のドイツ・フィンランド訪問やイラン核施設への攻撃などに触れ、「危険極まりない、核のタブーが壊されつつある。軍事対軍事では平和は守れない」などと訴えました。また、第2次「黒い雨訴訟」原告団長の岡久郁子さんは、「こんなひどい被害を及ぼす核兵器は絶対に使ってはならないし、なくさなければならない」と訴えました。また、県労連神部議長は、「核兵器禁止条約に参加する政治に転換するため、選挙に行って政治を変えよう」と行動を締めくくりました。

▲マイクをにぎり訴える岡久郁子さん

建交労広島 役員3名職場復帰！

▲3人を前にカンパを渡す神部議長

『名義貸し』の疑いで不当逮捕・勾留されていた建交労広島ダンプ支部の役員3名が6月25日に釈放されました。事前の捜査にも協力し必要な書類も警察に提出。これまで陸運局などからも指摘がないままの不当逮捕・勾留でした。武田喜成事務局長の勾留は42日間続き、「弁護士も勾留理由はないと何度も主張しましたが、『検事が必要だ！』と毎回却下され、逮捕、勾留延長、再逮捕、勾留延長と続き、先が見えないことが不安だった。」と話しています。風評被害での組合員の仕事が激減したこともあり、3名は早速、事業の立て直し、60名近い組合員の生活を守るために日々奮闘しています。多くの方からカンパ（1次25万円）も寄せられ7月2日に贈呈。組合員の生活のため一緒に奮闘することを誓い合いました。

網の目平和行進に200人

40回目を迎えた「網の目平和行進」が6月27日に開催。今年も200名が参加し平和と核兵器廃絶を願い広島市内4か所から平和公園をめざして行進しました。

被爆80年の節目を迎える中、世界では紛争が止まりません。それどころか米トランプ大統領の原爆投下を正当化する暴論まで飛び出す中での行進となりました。行進には恒例となった『ねこバス』も登場、沿道の注目を集めました。集結集会で、県原水協の高橋信雄代表理事は「トランプ発言を強く批判し、『いざとなったら核兵器を使うということ。許されるはずがない』と話し、藤中茂市教組（全教）委員長は「他国の行動については批判するが、自国のしたことは顧みない大国の指導者に『人の振り見て我が振り直せ』と言いたい。『○○ファースト』ではなく『みんな』の幸せを求めて歩みをすすめようと訴えました。

▲4コースから200名が平和公園に終結

ヒロシマ労連 第41回評議員会開催

▲あいさつする寺本和男ヒロシマ労連議長

7月4日（金）ヒロシマ労連第41回評議員会をオンライン併用で開催し、評議員は22人（会場9人、オンライン13人）、傍聴者5人、幹事8人が参加。「核兵器をめぐる世界の情勢と原水爆禁止世界大会の意義」と題し、神部泰県労連議長（県原水協代表理事）が、これまでの運動について話し、世界大会の意義について説明しました。原爆「リトルボーイ」をエノラゲイに積み込む映像を紹介した後、イランの核施設を空爆したトランプ大統領の横暴を批判し、平和的な解決を、世界の世論で作り出そうと訴えました。討論には広島市民病院労組、広島市教組、自治労連児童館指導員労組、留守家庭子ども会指導員労組、なかよし保育園分会、地域労組ひろしま、建交労広島支部、介護福祉労働者連絡会、三菱広船分会の9名が発言しました。

2025 ひと

広島県医療労働組合連合会 書記 箱田（はこだ） 知世（ともよ）さん

今年1月から、新しく書記局に入職した箱田さん。前職は一般企業の事務員だったという。毎日5キロの道のりを雨の日も風の日もガシガシと自転車をこいで通勤している。以前の会社でも（8キロ）6年7ヶ月通ったという。なかなかストイックだ。この世界に足を踏み入れ「知らないことが学べて楽しい」と言ってくれる。広島県医労連のインスタグラムも始めてくれて、フォロワーは既に700人を超えた。昼宣伝にも積極的に参加してくれ、既に「署名名人」を言われるほどだ。家に帰れば一人息子の維風（いぶき）君（4歳）をこよなく愛するお母さん。みなさんよろしくお願いします。（煙﨑）

なんじゃらほいほい

No.414　和井かやの

公務労組連絡会人事院交渉

公務労組連中国ブロック協議会は7月7日、池田銅像前広場で中国人事院交渉の報告集会を開催し、30名が参加しました。

「大幅賃上げしなければ欠員が解消されず長時間過密労働がまん延、再任用職員は同じ仕事を3割減の賃金で行い差別的、地域手当の大くくり化で新たな地域間格差が生まれる、会計年度任用職員の格付けの改善」等訴え、総務課長からは「本省に伝える。人員増は内閣人事局の担当等にとどまり引き続き訴えなければならない」と回答があったことが報告され、人勧勝利と最賃闘争を一体のものと捉え、官民共闘での賃上げ実現へ意思統一を図りました。

いの健中四国セミナーIN松江～中四国から108人が参加

6月28～29日に開催された第16回中四国ブロックセミナーin松江に108名（広島12名）が参加しました。いの健全国センター副理事長・田村昭彦氏は「安心して働くために、ハラスメントのない職場づくりを」と題して講演し、「日本では特定のハラスメント防止を義務化したが、包括的な禁止には至っていない」と指摘。ILO条約の批准と国内法整備を求める労働組合の運動の重要性を訴えました。

「エッセンシャルワーカーの問題」のパネルディスカッションでは4人が発言、中石浩美さん（広島自治労連）は「保育園では余裕のなさから話し合いが難しく、離職していく」と話しました。その後、後河内さんを支援する会のメンバーが裁判支援を訴えました。

「ハラスメントは奥が深く、誰もが被害者にも加害者にもなりうる。見て見ぬふりをしないように話し合うことが大切」などの感想が寄せられています。来年は高知で開催です。

七夕ウォークに45人

スポット県労連

高齢者一人ひとりの人権が輝く社会をつくろう、と今年で25回目を迎える「七夕ウォーク」を7月7日、45人の参加で行いました。11時に原爆ドーム前でスタート集会を前にみんなで「青い空」を歌い、続いて利元連絡会会長が参院選挙が始まる、高齢者が元気で安心して暮らせる社会にするために選挙に行って政治を変えようと挨拶、最後に「高齢者人権宣言」を実現しようとの集会「アピール」を採択し、元安橋に移動して本通りからアリスガーデンまでアピール行動を行いました。多くの市民が行き交う本通りでは「核兵器をなくそう」「最低年金を上げろ」「選挙にゆこう」などシュプリで市民にアピールしました。